

2023年度入社式について

2023年4月3日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、以下の通り「2023年度入社式」を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研は、2023年4月3日（月）10時から、国立研究所において、「2023年度入社式」を行いました。

入社式では、役員立ち会いのもと、渡辺郁夫理事長から新入職員18名一人一人に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へあいさつがあり、それを受け、新入職員を代表して上田寛人が答辞を述べました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長あいさつ要旨

本日、18人の皆さんを鉄道総研に迎えることができ、大変嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症の影響もだいぶ収まってきましたが、在宅勤務やWEB会議の普及、オフピーク通勤の導入などもあり、鉄道を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような状況の中、鉄道総研は「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献する」というビジョンのもと、鉄道事業者の負託に技術力でしっかりと応えるべく活動しているところです。

研究開発では、「鉄道の安全性の向上、特に自然災害に対する強靱化」、「デジタル技術による鉄道システムの革新」、「鉄道の脱炭素化」に関する研究などに重点をおきつつ、鉄道の基礎研究から実用的な技術開発にわたる広範な研究領域をカバーする研究開発を進めています。

皆さんは本日より鉄道の研究開発や関連する業務の専門家として仕事をしていくこととなりますが、まずは鉄道の現場をしっかりと見て、学んでほしいと思います。鉄道の技術的な課題の多くは、鉄道の現場にあります。鉄道における仕事のやり方、導入されているシステム・技術がなぜそうなっているのか、さらに改善すべきことがないかなど、問題意識を持ってください。

仕事を進めるにあたって、次の3つをお願いします。

第一は、それぞれの専門分野の知識、技術をまずはしっかりと身に付け、それをどのように役立てるのか考え、いろいろな課題に対応する基礎的な力を鍛えてほしいと思います。今、鉄道事業は大きく変わろうとしています。このような変化は新たなニーズや、技術革新の機会を生み出します。このようなときに、様々な課題に柔軟に対応できる基礎的な力を鍛えておくことが重要であると思っています。

第二は、DXやGXの視点を磨いてほしいと思います。鉄道においては、オペレ



写真 新入職員へあいさつする渡辺理事長

ーションやメンテナンスにおいて、無人化、省人化、コスト低減等のニーズが高まっています。これらを実現するために必要なDXは想定を上回るスピードでいろいろな領域に進んでいます。今後もこれらの技術の活用が、重要になると思います。GXも、2050年カーボンニュートラル実現に向けた鉄道の脱炭素の技術開発は喫緊の課題となっています。皆さんの新しい感性を、これからの研究開発にも生かしてほしいと思っています。

第三は、鉄道のユーザとしての目線を引き続き持ち続けてほしいということです。鉄道を利用するとき、あるいは鉄道の話題などに接した際、鉄道技術に課題がないか、課題があったらそれを解決するために自分は何ができるのか、常に考えてほしいと思います。

これから仕事を進めるうえでいろいろな課題も発生してくると思います、そのような課題をどうしたらクリアできるか、楽しみながら前向きに考え、取り組んでいってほしいと思います。多くの仲間とともに、新たな研究分野へも果敢にチャレンジし、「鉄道の価値を高める」、「鉄道の未来を創る」研究開発に取り組んでいってほしいと思います。

鉄道総研は皆さんの若い力と新鮮な感性を必要としています。皆さんのこれからの活躍を期待しています。ともに元気に頑張っていきましょう。

新入職員代表者答辞要旨

本日は、私ども新入職員のためにこのような入社式を挙げていただき、誠にありがとうございます。一同を代表し、心より御礼申し上げます。

ただいま、理事長より心温まる歓迎と激励のお言葉をいただきました。深く感銘を受けるとともに、身の引き締まる思いでいっぱいです。本日より、公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として、皆さまとともに働けることを誠に光栄に思います。いただいた言葉を胸に、技術革新に果敢に挑み、鉄道の発展、ひいては豊かな社会の実現に貢献できるよう邁進していく所存です。

とはいえ、未熟で頼りない私たちです。一日でも早く皆さまのお力になれるよう精一杯努力して参りますので、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

以上簡単ではございますが答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



写真 答辞を述べる新入職員